

イラク小児患者心臓手術支援

いまだに内戦状態が続いているイラクから重い先天性心臓病の小児2人が日本で手術を受ける為に、その両親、主治医と一緒に5月19日夜に関西国際空港に降り立ちました。

男児サジャドちゃん(5才)は心臓への肺動脈と大動脈の血管が逆につながっている「完全大血管転位症」、女児アリアちゃん(2才)は心臓に4つの形態異常が合併する「ファロー四徴症」で、日本ではいずれも1万人に1人程度の先天性疾患で、手術しか治療法がないという病状です。

この手術はピープルズ・ホープ・ジャパンと産経新聞「明美ちゃん基金」の双方の招聘で、ヨルダンまで患者たちを引取りに行きました。手術は国立循環器病センター(大阪・吹田市)で行います。

サジャドちゃんは6月7日に手術が無事終了し、集中治療室から小児科病棟へ移りました。アリアちゃんはまだ容態が安定しない為に待機状態です。

2児とその両親は病院に近い入院患者とその家族のための宿

泊施設「ドナルド・マクドナルド・ハウス」に泊まって、手術後のリハビリに努めます。アリアちゃんの手術も成功して元気な姿で日本を離れることを関係者一同心から祈っております。(関係記事P.3参照)



アリアちゃん(左)とサジャドちゃん(右)

イラク小児患者

患者氏名	年齢	病名	父の職業
Mr. Sajiad Saad Hussein	5才男(2002.4.2生)	完全大血管転位症(*)	運転手
Ms. Aliae Alaa Akif	2才女(2004.12.2生)	ファロー四徴候(**)	鍛冶職工

(*)肺動脈と大動脈が逆位置に繋がった先天性心臓奇形

(**)心室隔欠損・肺動脈狭窄など四徴症の先天性心臓奇形

巻頭言 / ポケットの小銭をどうぞ!



PHJ運営委員
神谷 洋平

横河商事株式会社
取締役常務執行役員

「貧者の一灯」という言葉があります。貧しい者が貴重な所持金の中から、教会または寺院へ蠟燭(寄付・寄進)を捧げるという心映えの美しさを指す言葉です。「長者の万灯より貧者の一灯」といいます。私はクリスチャンではありませんし、むしろ不信心者と非難されるべき真言宗豊山派門徒の末席を汚す者ですが、幸いにして「貧者」ではなく、無論「長者」でもありませんが、世間並みのごく普通の生活を送っているひとりです。

そういえば「心の灯」という言葉もありました。安価な蠟燭でさえ購うことが出来ない者は、心に蠟燭を灯しなさいという、やはり宗教上の誠に寛大な教えです。

私達凡人は、今日の自分、己の行く末にのみ汲汲とした日々を過ごしています。それが「普通の人々」です。世界

で起きている様々な事件や事象、十分な医療を受けることが出来ない人、その日の糧さえ満足に得ることが出来ない人達のこと、思いが及ぶことはほとんどない日々…。報道等から得る知識でその事実を知ってはいるものの何も出来ない、何もしない市井の人々にすぎない私達。私もそのひとりです。

ところで我がPHJは、その活動資金の多くを企業に依存しています。曰く「CSR」即ち「企業の社会貢献」という概念が広まっている昨今の事情を、色濃く反映した結果といえましょう。影響力のある有名企業や大企業が、人的・財政的にPHJ支援に動いていただけることは大変に結構なことであり、意義あることです。

ただ、それはそれとして、「貧者」とはいわなくても、非力かつ普通の市民であるより多くの個人が、各々その限られた条件下で、蠟燭の代わりに、また、教会や寺院の代わりに寄せるポケットの小銭こそ、意義ある行為であろうと私は思っています。

私はこの際、広く皆様に申し上げたいと思います。

「ポケットの小銭をどうぞPHJに!」

タイ活動報告 「AIDS予防教育センター」開設

タイ国チェンマイ市にて8年間実施してきた青少年向HIV/AIDS予防教育は大きな成果を収めました。その手法はピア・エデュケーションと呼ばれる仲間内教育です。具体的にはまず専門家が保健医学系大学生を教育し、彼らが仲間大学生や高校生を教えます。次に教わった高校生の中からマスターを選び仲間高校生や中学生を教えるという風に比較的年齢差の少ない仲間同士の教育です。したがってHIV/AIDSのようなデリケートな問題も質疑がしやすいのでグループディスカッションを交えて理解が深まり易いのです。今までに伸べ5000人の教育に成功しました。

このプログラムはPHJの実施した優れた成功事例とノウハウの蓄積(COE: Center of Excellence)のひとつとして今後はチェンマイのみならずタイ全土や近隣諸国に横展開してゆきます。そのための中心機構として「AIDS予防



(写真1)タイ事務所玄関前の看板

教育センター」をPHJ10周年記念事業として多くの会員の協賛を得て開設し、AIDS Prevention Education Centerの看板をタイ事務所の正面に飾りました(写真1)。そして6月7日に訪タイ中の須見代表を交えてランドオープニングのテープカットを行いました(写真2)。

海外展開の第一号はベトナムです。ベトナムはタイの近隣国で、やはりHIV/AIDSに悩んでいます。そこでホーチミン市の医薬大学とタイアップして今年11月に第一回のワークショップを開くべく準備を進めています。タイ事務所全員は新たな活動展開に胸を膨らませて頑張っています。(大谷暁子)



(写真2)オープニングセレモニー

カンボジア活動報告 助産師トレーニングを実施

カンボジア事務所では、現在、コンポントム州とプレイヴェン州で活動を行っています。今回は、プレイヴェン州での活動についてご紹介いたします。

プレイヴェン州は、首都プノンペンより車で2時間強に位置する州です。人口が多く、診療所の数も多いのですが、診療所でのサービスを適切に行える助産師の数が十分ではありません。そこでPHJは、母子保健改善活動の一環として、診療所助産師を対象に州都の病院で助産技術向上のためのトレーニングを行っています。

昨年、試験的に実施したトレーニングの評判が良かったため、晴れて第一回目が2月に行われました。受講者は2名です。一ヶ月間、病院に寝泊りし、病院の医師や助産師を講師として出産介助の実習を受けました。また、母子保健の理論についても学びました。PHJスタッフが、受講者や講師と毎週話し合いを行い、実習成果を確認しました。

一ヶ月間の実習で、2人の各受講者は8件と9件の普通分娩の介助を行いました。出産の経過を把握し、お母さんと赤ちゃんに対して、きちんとした処置ができるようになりました。また、病院に運び込まれてくる難産の

患者のケースを見学することによって、難産の症状を把握し、村で同様のケースに遭遇した際には速やかに病院へ移送する判断ができるよう

になりました。卒後教育の機会に限られるカンボジアでは、貴重なトレーニングです。

終了時には、受講者は、出産介助への自信が出てきたので、これからも安全なお産を村で行っていきたいとの抱負を述べました。また、州保健局や病院関係者からも、訓練が診療所の助産師だけでなく、病院にもいい影響を与えていると大変感謝されました。病院の現場で働く医師たちが講師となることによって、診療所と病院の結びつきも強化され、今後も協力してプレイヴェン州の母子保健状況改善が図られることを期待しています。

(中田好美)



病院長よりリム助産師へ終了証授与

インドネシア活動報告 口腔衛生予防教育

～いよいよ活動が現地移行～

2000年からバリ州東部で活動を展開してきた小学校での「口腔衛生予防教育活動」が2007年7月から現地に移行されます。

現地移行準備のために、120校全ての小学校で「口腔衛生教育リーダー」を育成してきました。

口腔衛生教育内容は、小学校での授業内容よりもはるかに難しいのですが、皆立派なリーダーに成長し、「口腔衛生教育」「歯磨き指導」などができるようになりました。



歯の模型を使って正しい磨き方を指導する上級生リーダー

各学校により非常に個性がある教育内容で、時には私たちも顔負けのユニークさで友達をリードしています。

活動移行後は、彼らが中心となり活動を実施するとともに、新たなリーダーをも育成して行きます。

これからの彼らの成長振りが非常に楽しみです。

(伊藤美夏)



下級生に口腔衛生の説明をする上級生リーダー（右端は説明をチェックしているスタッフのリラ歯科医）

イラク子供心臓病手術



バグダッドからヨルダンに到着した患者と家族たち



国立循環器病センターに入院する患者と家族たち

産経新聞

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
 電話 03-5561-3111
 発行所 産経新聞社 東京都千代田区千代田1-1-1
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

手術室へ入るサジャドちゃん(左)と見送る父、サアドさん(7日午前8時51分、大阪府吹田市)の国立循環器病センター

サジャドちゃん 手術終了

小さな命 また救われた

経過順調、指先ピンクに

手術後の心臓

手術成功を報じる産経新聞

会員のひろば



今の私に出来ること

中村 篤人
(個人会員・パートナー会員)

私がPHJとの関わりあいをもったのはかれこれ、私がシンガポールに駐在している1998年の9年前になります。シンガポール駐在時はインドネシアやインドという発展途上国に出張する機会も多く、いつも飛行場、またはタクシー乗り場で、小さい子供達が何か恵んで欲しいと寄ってきていつも無視してしまい、後で「これでもいいのか？」と自分自身に問いかけていました。

私自身は恥ずかしながら発展途上国の人々の事を新聞、テレビ等で目にする事もありましたがどうやって支援をしたらよいのかわかりませんでした。

そんな時にPHJの存在を知りました。

PHJの理念は「世界の全ての人が健康に暮らせるようになること」であり、活動目的は主にアジア・東欧途上国を対象に、その国の人々や組織と協力しながら健康・医療環境の向上を目指し、自立しようとする人々を支援するものです。そのことに感銘を受け、是

非とも支援したいと思いました。

タイ、インドネシア、カンボジアの3カ国でのプログラム活動はPHJから定期的に活動報告書や資料が送られてきて、私たちの支援が確実に現地の人達に届いているということが実感できます。

時には子供たちが心をこめて作ってくれたものを届けてくれます。

これもPHJの方々、特に、現地で働いているスタッフの計り知れない苦勞と努力によるものだと思います。支援をする事を具体的に形にできなかった私がPHJを通じて少しでも役に立てていることは私の生きがいの一つでもあります。

今後は経済的支援だけにとどまらず心と心の交流を通して病氣と闘っているAthiwat君を勇気づけることができたと思っています。何よりAthiwat君が再び健康を取り戻し、元気に走り回ることができるようになることを願っています。

そう……いつの日か、一緒にラグビーができることを……

※中村さんはパートナー会員としてAthiwat君をサポートしています。

PHJ新スタッフ紹介



塩田 勝雄

“世界の人々に健康と希望”を与えるお手伝いが出来るなんて思いもしませんでした。

その為に「無」から「有」を生み出すことは真に厳しい。しかし、あのキラキラと光るつぶらな瞳を見続けることが出来るなら耐えられそうな気がします。

今年初めに小学校を寄贈した仲間の一人としてカンボジアを訪れ、子供たちと触れ合いを持ったことが縁になりお手伝いをする事になりました。

Happy/Happyを心の糧にして、これまでお世話になった社会との関わり合いが出来たことに感謝しつつ活動していきたいと思っています。なにとぞよろしく願いいたします。



蓮見 雅彦

いままでは、ボランティア活動には無縁でした。昨年暮れに還暦を迎え、仕事の環境を変えてみることにしました。本職としては、GEHCで医療機器に関する仕事を継続していますが、共通テーマである「医療支援」を掲げているPHJで、今までの経験を生かせれば、と考え活動を始めました。

担当は、主にアジア3国(タイ、インドネシア・カンボジア)に対する数々あるプログラムのサポートです。

なんと、横河電機構内にあるPHJ事務所に通うことになり、38年前に社会人一步を踏み出した横河電機製作所入社時と同じ道を三鷹駅から歩いています。感無量！

今日からあなたも地球人 個人会員・ホープパートナー会員募集中！

FAX 0422-52-7035

ピープルズ・ホープ・ジャパン 行

個人会員申込書 会費3,000円/年× 口 = 円/年

ホープパートナー会員申込書 会費3,000円/月

の中にチェック☑を入れて下さい。

ふりがな

氏名

電話

自宅住所 〒

勤務先

電話

お申込みは、郵送、FAX、ホームページなど、どのような方法でも、結構です。後程送金方法を連絡させていただきます。

発行：ピープルズ・ホープ・ジャパン / 発行責任者：須見 彰 / 編集人：三木 巖 / 発行日：2007年7月2日

〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL：0422-52-5507 FAX：0422-52-7035

E-mail：info@ph-japan.org インターネットホームページ：http://www.ph-japan.org